

第8分科会 国際理解教育

研究課題 国際社会に生きる資質や能力を育成する国際理解教育

趣 旨

社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な社会の発展に向けて国際協力が求められている。

これからの国際社会で生きていくためには、自分とは異なる文化をもった人々と共生していくという視点に立って、子どもの資質や能力を育成していかなければならない。

そのためには、広く国際社会に生きる日本人として、自分の住む地域や日本についてよく知り、歴史や文化についての認識を深め、尊び、誇りをもつことなど、自国の文化や伝統を尊重する態度をはぐくまなければならない。

また、異なる文化をもつ人々と互いの文化を認め、理解し尊重し合う態度を養うことも必要である。

さらに、多くの国々との交流の機会が増す中で、国際社会の平和と発展に寄与するとともに、我が国の文化や習慣について発信したり、異なる文化の人たちと意志の疎通を図ったりすることのできる表現力や幅広いコミュニケーション能力を身に付けることも重要である。

そこで、校長の指導性を発揮しながら、様々な教育活動を通して、子どもたちが自国の文化や伝統を理解し、国際的視野を広げ、国際理解を深めるための具体的方策について明らかにする。

研究の視点

1 日本の文化や伝統を基盤とし、互いの文化や伝統を理解・尊重する国際理解教育の推進

次代を担う子どもたちがグローバル化した時代を生きていくためには、世界の中で信頼される日本人に育てていく必要がある。そのためには、我が国の優れた文化や伝統を理解し、誇りをもって継承するとともに、世界の多様な文化と伝統についても、違いを違いとして認め合い、それぞれの価値観を尊重し合う態度を身に付けることが大切である。

各教科や総合的な学習等を中心に、横断的なカリキュラムの編成を通して、国際社会に生きる資質や能力を育成する国際理解教育の推進について、校長の果たすべき役割と在り方を究明する。

2 豊かな表現力やコミュニケーション能力を育て、活用する外国語活動の推進

小学生の持つ柔軟な適応力を生かして言葉の自覚を促すとともに、豊かな表現力を育成することが大切である。また、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる必要がある。

外国語活動をはじめ、様々な教育活動を通して、豊かな表現力やコミュニケーション能力を育て、活用する教育の推進について、校長の果たすべき役割や在り方を究明する。